

# 山目校舎 わかば学級・中学部

## 学部テーマ「集団学習を生かした自立活動の充実」

### 1 テーマ設定の理由

山目校舎小学部わかば学級、中学部は病弱・肢体不自由の児童生徒が在籍し、自立活動を中心とした教育課程で指導を行っている。わかば学級では週に数回、自立活動の時間に集団での学習の時間を設けている。また、令和2年度中学部では在籍生徒数が増え、集団学習の時間を設けることが可能となった。自立活動の指導で集団学習を行うことで、他者との関わりを形成したり、様々な経験を重ねる中で社会性やコミュニケーション手段を育んだりする効果が期待される。そこで、本研究では集団学習に焦点を当て、児童生徒の実態に基づいた授業内容の充実を図りながら、児童生徒が他者との関わりを意識したり、関わりを楽しんだりする姿を目指したい。

### 2 研究方針

自立活動における個を意識した集団学習の具体的な指導内容を検討する。

#### (1) 1年次

＜わかば学級＞

- ・新学習指導要領の自立活動の内容について研修を行い、知識を深める（学部研修会）。
- ・実態把握から具体的な指導内容を検討するための流れ図を作成する。
- ・実践に向け、集団学習での学習内容を検討する。

＜中学部＞

- ・個々の自立活動を効果的に指導するための集団の在り方を検討する。
- ・実践に向けて、集団活動を通して目指すねらいを明確化する。

#### (2) 2年次

＜わかば学級＞

- ・集団学習「わくわくタイム」を取り上げ、学習内容を確認しながら、授業改善を行い、実践を積み重ねる。
- ・児童個々の実態整理表を作成して共通理解を図り、授業に生かす。
- ・授業提案及び授業研究会を行う。

＜中学部＞

- ・他者との関わりについて実態把握から流れ図を作成する。
- ・作成した流れ図から生徒一人一人の目標、指導内容を検討する。
- ・指導実践を通して、目標、指導内容の設定が適切であったか評価、検討する。

### 3 令和2・3年度 研究経過・内容※4月と2月に全職員共通の内容を伝達する機会を設定

月	内容
R2年5月	令和2年度の方針について
6月	学部研修会講師への質問、要望アンケートの作成
7月	学部研修会「自立活動の指導の基本」
9月	研究実践
10月	研究実践

11月	研究実践
12月	実践のまとめ
R3年1月	全校研発表内容検討・確認
5月	研究実践
6月	学部研修会「新学習指導要領に基づく自立活動の評価の観点」
7月	研究実践
9月	研究実践
10月	研究実践
11月	わかば学級研究授業・授業研究会
12月	中学部授業研究会・研究授業、研究のまとめ
1月	研究のまとめ、全校研発表内容検討・確認

#### 4 研究実践

##### (1) 1年次

###### <わかば学級>

わかば学級では、週に数回、自立活動の時間に集団での学習を行っている。1学級あたりの人数が少ないため、集団生活の経験が少ないわかば学級の児童にとって、集団学習は人との様々な関わりをもつことができる大切な場であると考え。集団学習は在籍する幅広い児童の実態に合わせ、人との関わりをもつことができるような内容を検討していく必要がある。

1年次では実践の前段階として、新学習指導要領「自立活動」の流れ図を参考に、個別に児童の実態把握を行い、集団活動の中で目指したい姿について検討を行った。

###### ◎集団学習で目指す姿について（検討のまとめ）

- ・児童の実態に応じて、関わりをもつ際に教師を介する児童、また、自分から積極的に関わりをもってほしい児童など、方法はそれぞれであるが、多くの児童が共通して集団学習で伸ばしていきたい部分は「人との関わり（コミュニケーション）」であった。
- ・低学年児童は、他者とのコミュニケーションを目指す段階より前の「集団学習の雰囲気の中で自分が楽しむこと」を集団学習の中で目標にしたいと考える。

###### <中学部>

集団学習を通してより充実させることができる目標、具体的な指導内容について検討を重ねた。

7月の学部研修会で、自立活動において集団で取り組むことにより期待できることとして、

- ・個人のねらいとなり得る活動であること
  - ・相手（大人ではなく生徒同士）がいなければ成り立たない、相手を意識する活動であること
- との助言をいただいた。

令和2年度、中学部は2学年6名在籍となり、集団の中でより相手を意識した活動場面が見られるようになった。また、音楽、運動、作業学習的な活動を集団で定期的に取り組む状況が徐々に整い、令和3年度が集団学習の取り組みのスタート地点であると捉えた。そこで次年度に向けて、改めて、1年次に取り組んだ集団学習の中で、一人一人がどのように他者との関わりを意識することができたかを把握するところからやり直すこととした。

##### (2) 2年次

###### ア 学部研修会

6月に、1年次に引き続き、総合教育センター阿部指導主事を講師に招き、自立活動の評価の観点、指導計画の作成について研修を行った。研修会では、

- ・自立活動の指導計画作成の手順について
  - ・計画に基づいた指導においては、いつ、どこでどのように指導をするか、指導の場について検討を行うこと
  - ・自立活動の基本は個別であり、集団学習では、集団の中での個に応じた視点をもつこと
  - ・自立活動の評価は、個別に設定した目標に照らして、それがどれだけ実現できたかを評価すること
  - ・評価に基づいた目標、内容の見直し、指導の改善を行うPDCAサイクル
- について、講義をいただき理解を深めた。また、演習として、各自、児童生徒を想定し、流れ図による実態把握から指導計画を考察した。

<例> 中学部生徒Aについての流れ図（学習指導要領解説自立活動編記載の様式、R3研修会で講習を受けたもの）

学部・学年	学部・第■学年
障害の種類・程度や状態等	肢体不自由(脳性麻痺による両上肢機能障害、移動機能障害)
事例の概要	集団学習で相手を意識して関わりをもつことの指導

<p>① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動を中心とした教育課程（病弱・肢体重複障害）で学習をしている。</li> <li>・座位保持装置を使用し、移動や身辺処理においてほぼすべての場面で介助を必要とする。</li> <li>・聴覚刺激に対して敏感に反応する。</li> <li>・仲間の活動の様子をよく見ている。他者の話を聞き内容を正確に記憶している。</li> <li>・コミュニケーションは選択で受け答えしているが、自分から言葉で意思を伝えようとする場面が増えてきた。</li> </ul>
--

②-1 収集した情報（①）を自立活動の区分に即して整理する段階					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体温調節がうまくできず、暑がったり寒がったりする。</li> <li>・風邪気味のとときなど鼻が詰まりやすく、息苦しくなりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・突然の物音や大きな音、特に他人の咳などに敏感に驚く。</li> <li>・慣れない場所では不安や緊張で表情が硬くなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間や職員の活動の様子をよく見ている。</li> <li>・自分から積極的に人と関わろうとする場面が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚や、空間、時間の概念を活用して周囲の状況を把握することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体幹、頭部を保持することが難しく、座位保持装置を使用して座位を保っている。</li> <li>・四肢の緊張が強く、関節も硬くなっているため動かすのが難しい。手指、手首は拘縮が進んでいるが、腕部は比較的自由に動かすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問や選択肢に yes,no で答える。承知したときは「はい」と返事をする。</li> <li>・自分から言葉で意思を伝えようとする場面が増えてきた。</li> </ul>

<p>②-2 収集した情報（①）を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚刺激に敏感で不意の音に驚いたり、特定の音が苦手だったりするが、仲間や職員の活動の様子に注意を払い、話もよく聞いて理解している。</li> <li>・自分から言葉で意思を伝えようとする場面が増えたが、十分に伝わらないため、質問や選択肢に yes,no で答えることで意思の疎通を図っている。</li> </ul>
--

<p>集団学習でねらいたい姿（目標）</p>
<p>教師との関わりだけでなく、仲間との関わりを意識して、仲間を受け入れたり仲間に働きかけたりすることができる。</p>



自立活動における個別の指導計画シート（R3研修会演習で使った様式）

1 生徒の実態

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
生徒のよさ	教師とのやりとりを通して、暑い、寒いを伝え、着衣の調節を依頼できる。	予告や経験により見通しをもつことで、不安を軽減することができる。	自分から積極的に人と関わろうとする場面が増えた。	自分や仲間を含めた順番が分かる。前後左右の位置関係が分かる。		質問や選択肢に yes,no で答えることで、具体的な内容までやりとりができる。
	6 (1) ?	2 (1) (2)	3 (2) (4) ?	4 (1) (5)		6 (1) (2)
生徒の課題			関わる対象の拡大。			
			3 (4) ?			

2 課題同士の関連

課題同士の関連	関連する項目
	2、3、4、6

3 指導目標（個別の指導計画：長期目標）

指導目標	関連する項目
ア：体の緊張を緩めながら様々な姿勢をとり、頭部を保持して学習に取り組むことができる。	5
<b>イ：相手との関わりを意識して、自分から仲間と協力することができる。</b>	2、3、4、6
ウ：新しい活動に積極的に挑戦する。	2、3、4、6

4 指導目標を達成するために必要な内容項目の設定

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成	情緒の安定	他者とのかかわりの基礎	保有する感覚の活用	姿勢と運動・動作の基本的技能	コミュニケーションの基礎的能力
(2)	病気の状態の理解と生活管理	状況の理解と変化への対応	他者の意図や感情の理解	感覚や認知の特性についての理解と対応	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	言語の受容と表出
(3)	身体各部の状態の理解と養護	障害による学習上または生活上の困難を改善・克服する意欲	自己の理解と行動の調整	感覚の補助及び代行手段の活用	日常生活に必要な基本動作	言語の形成と活用
(4)	障がいの特性の理解と生活環境の調整		集団への参加の基礎	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動	身体の移動能力	コミュニケーション手段の選択と活用

(5)	健康状態の維持・改善			認知や行動の 手 がかりとなる概 念の形成	作業に必要な 動作と円滑な 遂行	状況に応じたコミュ ニケーション
-----	------------	--	--	--------------------------------	------------------------	---------------------

5 具体的な指導内容（ポッチャ以外にもクラスや学年で取り組んでいる題材）

関連項目	2 (2)、3 (2) (4)、 4 (5)、6 (1) (2)	4 (5)、5 (1)、6 (1) (2)	
具体的な指導内容	・仲間と関わりながらポッチャのゲームを楽しむ。	・仲間と協力して製品を作り、販売することを目指して、作業的活動に取り組む。	

※令和3年度、中学部ではポッチャを題材に研究授業を行っている。

イ 実施した研究授業

- ・小学部わかば学級 11月19日（金） 単元名「おばけを倒してハッピーハロウィン！」
- ・中学部 12月2日（木） 単元名「仲間と一緒に楽しくポッチャで対戦」

ウ 研究授業と研究協議の結果（※指導案・資料一部抜粋）

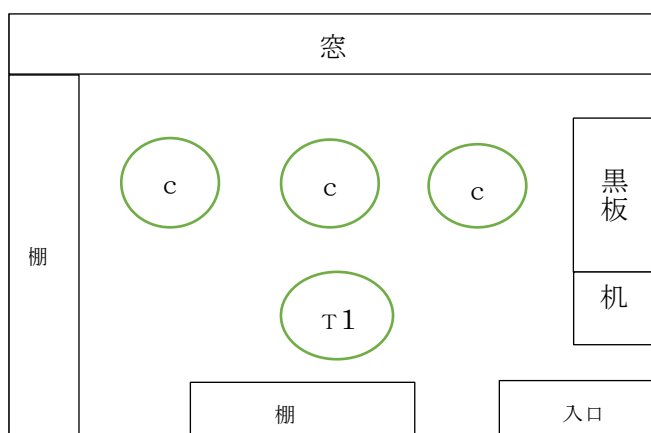
<p>&lt;わかば学級研究授業&gt;</p> <p style="text-align: center;">小学部わかば学級 自立活動「わくわくタイム」学習指導案</p> <p style="text-align: right;">日 時 令和3年11月19日（金） 3校時（10:50～11:25）</p> <p style="text-align: right;">場 所 集会室</p> <p style="text-align: right;">対 象 わかば1組 男子2名、わかば2組 男子2名 わかば3組 女子3名、計7名</p> <p style="text-align: right;">授業者 T1:木村智子、T2:及川聖菜、T3:菅原久恵、 T4:森智美、T5:小野寺育子、T6:佐々木未央 P1:菅原和浩、P2:土佐幸子</p>	
1	単元名「おばけをたおしてハッピーハロウィン！」
2	単元のねらい
	(1) 落ち着いて・楽しく・一人で、または教師と一緒に活動に参加する。＜心理的な安定＞
	(2) 自分の学級以外の教師や友達と一緒に活動する。（友達の活動を見る、友達に見てもらい、友達の応援をする、教師と一緒にやってみる）＜人間関係の形成＞
	(3) ハロウィンの雰囲気を楽しむ、飾りを見る、飾りを作る、音楽に合わせて体を動かす。＜環境の把握・身体の動き＞
	(4) ボールを転がして的に当てる。＜環境の把握・身体の動き＞
	(5) 呼び掛けに応じたり、快・不快を表現したり、自分から話したり関わったりする。＜コミュニケーション＞
3	本時のねらい
	ア 友達との集団学習の雰囲気を楽しみ、友達を意識して活動することができる。
	イ 個々に応じたやり方でボールを転がし、的に倒すことができる。
	ウ 自発的に、または教師の支援を受けて、体を動かす。
4	本時の展開
	●教材教具の工夫 ☆教師の関わりの工夫 ★場の設定の工夫 ■活動の流れの工夫

時間	児童の活動	支援上の留意点	教材教具等
10:50	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室から仮装をして集会室に移動する。</li> <li>・ドアが開いたら、招待状をT1に渡してくじを引く。</li> <li>・窓側を背に学級ごとに並ぶ。</li> </ul>	<p>☆T1 は時間になったら集会室のドアを開け、一人一人に声を掛けながら招待状を受け取り、くじをひいてもらう。</p> <p>☆T3～P2 は児童と一緒に移動し、声掛けや手を添えるなどして、T1 に招待状を渡したり、くじを引いたりする支援を行う。</p> <p>☆T3 はB児と、T4 はE児と、T5 はC児と、T6 はF児と、P1 はD児と、P2 はG児と主に一緒に活動する。</p>	CDデッキ CD ボール・的 投球台 投球補助板 投球補助台 得点表 得点カード
10:55	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気にあいさつをする。</li> <li>・曲に合わせてストレッチ、ダンスをする。</li> </ul>	<p>☆■T1 はあいさつをする児童を指名し、前に出て元気にあいさつをするように声を掛ける。</p> <p>☆■ウォーミングアップのストレッチ・ダンスをしてからゲームに入ることを伝える。T1 はA・B児の前で手本を示す。T2 はC・D・E・F・G児に声を掛け、前で手本を示す。</p> <p>・T1 は上手にできている児童を大きな声で称賛し、みんなに知らせる。</p>	顔写真カード くじ おやつ おやつ入れ
11:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くじの色を見て同じグループの友達を探し、グループに分かれる。</li> <li>・グループで順番を決め、投球練習をする。</li> </ul>	<p>☆T1 はくじの色を確認して仲間を探し、2つのグループに分かれるように声を掛ける。T3～P2 は児童と一緒にくじの色を確認し誘導する。</p> <p>☆T1 はチームが分かれたら、順番を決めて投球練習を始めるように声を掛ける。一人一投ずつ終わったところで練習をやめるように声掛けし、各チームの投球順を聞き、大きな声で発表する。</p>	
11:03	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投球順番をみんなで確認する。</li> <li>・一投目の児童は準備をする。 「ハッピーハロウィン」の声掛けでボールを転がす。</li> <li>・倒れた的をみんなで数える。</li> <li>・二投目、三投目の児童も同じように繰り返す。</li> <li>・1 ゲーム終了時点での得点を比べる。</li> </ul>	<p>☆T1 は一投目の児童に準備をするように声を掛ける。両チーム準備ができたなら、「さんはい」と音頭を取る。</p> <p>☆★T1・T2 は倒れた的を分かりやすく提示し、みんなで数えるように声を掛ける。</p> <p>☆二投目、三投目の児童にも同じように声を掛け、ゲームを進める。</p> <p>●☆C・D児は、ボールを投球台に設置したら、T5、P2 が手をボールの上に乗せる。</p> <p>E児はボールを投球台に設置したら、足で台を蹴りやすい位置に車いすを移動する・投球台を使い、手をボールの上に乗せる・投球台のひもの取っ手を一緒に持つなど、その時の様子を見ながらT4 が支援する。G児は、投球台の手前に補助台を設置してT6と一緒に投球台のひもを引き、台を動かしてボールを転がすように支援する。F児は投球補助板を使い、ボールを児童の前に設置したらP2 がボ</p>	

<p>11:20</p> <p>11:25</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A・B児は呼ばれたら前に出て、T1と一緒にキャンディーの数を比べ、勝っているチームを知らせる。</li> <li>・T1の話聞き、2ゲーム目を始める。</li> <li>・合図を聞いてゲームを終了する。</li> <li>・得点表に注目し、結果を聞く。A・B児は前に出て、T1と一緒に得点表を見て、どちらのキャンディーが多いか比べ、みんなに発表する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつをする</li> <li>・「ハッピーハロウィン」と告げて、T1からお菓子をもらって教室に戻る。</li> </ul>	<p>ールに手を載せ、転がすことができるように支援する。</p> <p>●●☆一巡したところで、1ゲーム終了の各チームの得点を比べる。T1はA・B児を前に呼び、一緒に模造紙にはったキャンディーの高さ(数)を確認し、勝っているチームを知らせる。</p> <p>☆T1は2ゲーム目を始めることを伝え、一投目の児童に準備するように声を掛ける。準備ができたなら、「さんはい」と音頭を取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1ゲーム目と同じ手順を繰り返す。</li> </ul> <p>☆一巡したら、T1はゲーム終了の声掛けをする。得点表に注目するように声を掛け、A・B児を指名して前に出てきてもらう。</p> <p>☆T1はA・B児とキャンディーの数を確認し、児童と一緒に勝ったチームを発表する。</p> <p>☆T1はハロウィンボウリングの終わりを知らせ、最後の仮装をして教室に戻るように伝える。また、終わりのあいさつをする児童を指名し、前に出るように声を掛ける。</p> <p>☆児童と一緒にあいさつをする。また、出口で合言葉を伝えるように声を掛ける。</p> <p>●●☆T1は出口で児童一人一人に声を掛け、合言葉を伝え合い、お菓子を渡す。</p>	
---------------------------	--	---	--

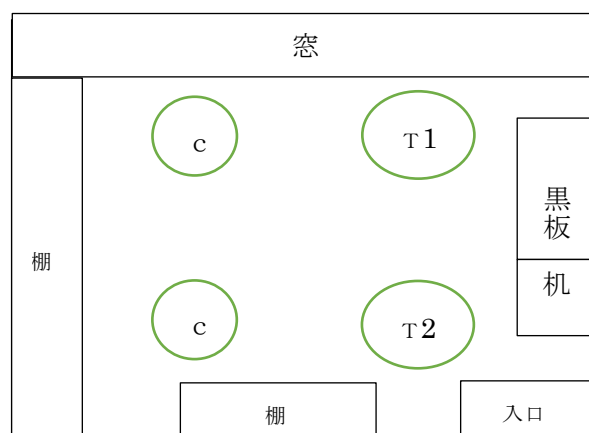
5 配置図

<①集合・ストレッチ・ダンス>



※C(児童)は入場順に学級ごとに並ぶ。  
T・Pはそれに応じる。

<②ハロウィンボウリング>



※Cはくじでグループ分けを行うのでこの図は暫定。T・Pは児童に応じて位置に付く。

6 評価の観点

(1) 本時の評価

- ア 友達との集団学習の雰囲気を楽しみ、友達を意識して活動することができていたか。
- イ 個々に応じたやり方でボールを転がし、的を倒すことができていたか。

ウ 自発的に、または教師の支援を受けて、体を動かすことができていたか。

(2) 支援の手立ての評価

ア 友達との集団学習の雰囲気を楽しみ、友達を意識して活動することができる状況づくりができていたか。

イ 個々に応じたやり方でボールを転がし、的を倒すことができる状況づくりができていたか。

ウ 自発的に、または教師の支援を受けて、体を動かすことができる状況づくりができていたか。

<資料1・実態整理表>

実態整理表（新学習指導要領・自立活動 流れ図より）

学部・学年（学級）	小学部・第○学年
障害の種類・程度や状態等	
事例の概要	集団学習で他者との関わりを広げるための指導について

①障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等についての情報収集

※事例の概要に関係ある内容で、5つ程度記入して下さい（フェイスシートから拾って構いません）。

- ・自立活動・各教科等の教育課程で学んでいる。（病弱肢体不自由重複Ⅰ）
- ・学校では、大きく体調を崩すことなく元気に過ごしているが、病気の関係で腸内のポリープが増えてくると、栄養の吸収率が悪化し、疲れやすくなる。
- ・月に1回の1泊2日の定期入院で不足分の栄養を入れており、年に2回のポリープ切除がある。
- ・音楽やダンスが好きである。特にリズム感が良く、タイミングよく手をたたいたり、声を出したりできる。動きを模倣し、両足で跳んだり、つかまって片足立ちなどもできるようになってきている。
- ・自立活動では、集中力が長い間続かないため、数字カード並べ、運筆、作業学習的な活動などを組み合わせて行っている。ペグ差しやシール貼りなどの作業的な学習が得意である。
- ・発音がはっきりしてきて、発表等に堂々と取り組んでいる。

②-1 収集した情報（①）を自立活動の六区分から見て整理すると…※①で挙げた個数より増えて構いません。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・汗をかきやすいため、こまめな水分補給、服装・室温調整が必要である。 ・食事はシリンジから栄養剤を摂取している。月に一回1泊2日の入院をし不足分の栄養を摂取している。	・我慢をため込み、泣くことがある。 ・気分が落ち込んでいたり、体調が悪いときは、眠くなったり、机に伏しているときがある。 ・自分が好きなことには、集中して、楽しむ。	・慣れるまで時間がかかる。慣れてくると手を伸ばし、関わるができる。 ・知っている人がいれば、グループでの活動ができる。	・新しい環境になれるまで時間がかかる。 ・大きな音や声が苦手である。 ・暗い場所を怖がる。	・体操やリズムに合わせてジャンプしたり、踊ったりできる。 ・歩いたり、走ったりできるがバランスを崩しやすいので、転倒しないよう注意が必要。	・ジェスチャーや声を出して、気持ちを伝えるようになってきた。 ・慣れていない人には、自分から伝えることが難しい。

②-2 収集した情報（①）を学習上または生活上の困難や、これまでの学習の様子から見て整理すると…

※集団活動の様子なども。（ ）内には、六区分のどこに当たるかを記入して下さい（区分の複数選択可）。

- ・汗をかきやすいため、水分補給や衣服・室温の調整が必要である。（健）



- ・新しい環境や人に対して慣れるまで時間がかかる。同じクラスの一年生の行動に慣れることができず、廊下に出たり、目の届かない場所に移動したりすることがある。(人、環、コ)
- ・音楽やダンスなど自分の好きなことには集中して楽しむ。(心、身)
- ・ジェスチャーや声で気持ちを伝えられるが、慣れていない人には、伝わらないときがあり、伝えることを止めてしまうときがある。(人、コ)

これらのことから、集団学習でねらいたい姿(目標)は…

➡「**集団学習を楽しみ、自ら進んで仲間と関わりをもとうとすること、担任が同じグループにいなくても他のクラスの教師の話聞いて活動できること**」です。

<資料2・児童の様子> ●教材教具の工夫 ☆教師の関わりの工夫 ★場の設定の工夫 ■活動の流れの工夫

児童名	児童の実態	個別の指導計画 <短期目標>	集団で狙いたい姿 (目標)	本時の目標	支援の手立て
A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・わくわくタイムを楽しみにしている。自分で衣装を選び、友達に見てもらうことも楽しみにしている。</li> <li>・自分で投球台にボールを載せ、勢いよく転がして的に当てることができる。たくさん倒れると、拍手したりジャンプしたりして喜ぶ。</li> <li>・T1に声を掛けられると、転がったボールを友達に渡したり、投球台に設置したりできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雰囲気を楽しみながら、自分から体をたくさん動かして活動することができる。</li> <li>・同じチームの友達や教師と関わりながら活動することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から掛け声を掛けたり、友達を応援したりしながら、楽しくゲームに参加する。</li> <li>・友達のボールを拾ってあげたり投球台に設置したりなど関わりながら活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●★意欲付けのために、教師と一緒に作った飾りを設置しておく。衣装も、着たいものを選び、着用する。</li> <li>☆楽しく授業に参加できるように、一緒に盛り上げる。</li> <li>☆転がったボールを拾いに来るように声を掛けたり、「台に載せてあげてね」と声を掛けたりする。</li> </ul>

<評価>

評価の観点

ア 本時の評価		◎よくできた	○できた	△もう少し
(ア) 友達との集団学習の雰囲気を楽しみ、友達を意識して活動することができていたか。	○			・個人の本時の評価や活動の様子から、「友達との集団学習の雰囲気を楽しみ」は達成できたと考え。「友達を意識して活動することができていたか」という評価については、ねらい自体があいまいだったのではないかと反省している。
(イ) 個々に応じたやり方でボールを転がし、的に倒すことができていたか。	◎			・個々に応じたやり方でボールを転がし、的に倒す、倒そうとしていた。
(ウ) 自発的に、または教師の支援を受けて、体を動かすことができていたか。	○			・ストレッチ、ダンスを始め、今までで一番児童の動きがよかった。
イ 支援の手立ての評価				
(ア) 友達との集団学習の雰囲気を楽しみ、友達を意識して活動することができる状況づくりができていたか。	○			
(イ) 個々に応じたやり方でボールを転がし、的に倒すことができる状況づくりができていたか。	◎			
(ウ) 自発的に、または教師の支援を受けて、体を動かすことができる状況づくりができていたか。	◎			

## <研究協議>

### 1 協議・意見交換

#### (1) 授業者から

自立活動「わくわくタイム」は、毎週火曜日の3校時目に、わかば学級合同で行っている学習活動である。みんなで集まって体を動かし、様々なゲームに取り組む活動を、年間を通して行っている。体育館などの広い場所で体を動かし、のびのびと活動することはもとより、一緒に活動する中で、友達存在に気付いたり、友達を意識したりしながら、集団で活動する雰囲気や楽しさを味わい、友達とのやり取りの楽しさ、友達から認められる嬉しさなどを感じることを目的として、授業を組み立てている。今年度は特にも、2年次研究の実践の年として、昨年度、「わくわくタイム」の題材を吟味し、年間指導計画を立てたので、それを考慮しながら授業を行ってきた。

活動場所としては、夏休み前までの気候が温かい時期は体育館で行い、「さかなつり」は暑さと活動量を考慮し、わかば2組で行った。本単元では集会室を活動場所としたが、集会室の使用は今年度初めてである。

本単元は、「ボウリング」を題材とし、秋になると装飾などで目にすることが増え、学校の教育活動でも取り上げられるようになってきている「ハロウィン」をテーマに取り上げた。単元化して取り組むことにより、「わくわくタイム」の活動を中心に、合同朝の会（なかよしタイム）や学級でもハロウィンにちなんだ音楽を聞いて体を動かしたり、飾りづくりを行い、飾って見合ったりするなど活動を広げ、ハロウィンの雰囲気を楽しみながら、友達と一緒に取り組む「わくわくタイム」に、より期待感をもって臨んでほしいと授業を組み立てた。単元期間は清明祭が終わってからの10月いっぱい当初考えていたが、児童の欠席が少なく、なるべくみんなが揃う日、集会室を使用できる日を考慮し、ハロウィンが終了した11月まで単元を行った。単元を変えることも考えたが、繰り返し活動してきて児童も慣れてきたことから、研究授業を最終日に設定し行った経緯がある。

評価については、児童一人一人のねらいは、概ね達成できた。参観する先生方もいたので、張り切って取り組んでいたと思う。支援の手立ての評価については、この研究会でご意見をいただきまめたい。

#### (2) 教材教具の工夫について

- ・投球台やボールの大きさなど、児童一人一人に合うように工夫されていた。
- ・他者の取り組む姿勢を見て、「自分もやってみよう」、「楽しそう」と思えるものだった。
- ・指の動かし方や好きなものなど、児童それぞれをよく観察して新しいことに取り組むことができるように教材教具が工夫されていた。
- ・BGMの音量について、活動に合わせた音量調整が必要だった。
- ・授業の最後に手渡すお菓子は一度だけにして、シールでもよかったのではないかな。

#### (3) 場の設定の工夫について

- ・装飾のしやすさ（場の広さ）や寒い時期であること（気候と児童の健康面）を考慮して集会室を選んだが、ボウリングをするという点では少し狭かったのではないかな。

#### (4) 教師の関わりの工夫について

- ・T1とT2の役割分担について、最初から二人が前に出ていた。二人がそれぞれのグループのチーフだからということだが、導入部分はT1のみでよかったのではないかな。
- ・それぞれのグループごとの活動時は、二人とも前に出てよいと思う。

#### (5) 評価の観点について

- ・「友達を意識して活動する」ことについて

自分から友達に働きかけることができる児童はもちろんだが、教師の仲立ちがあれば関わるこ

とができる児童、関わることを受け入れることができる児童、周りの声を聞いて表情が豊かになる児童と、実態は様々だが、全て「友達を意識している」と捉えてよいのではないか。こういった姿が見られることが、集団学習のメリットである。

#### (6) その他・改善点

- ・自立活動の単元化について、単元化した方が児童に分かりやすいのではないか。
  - ・「わくわくタイム」が体育的な活動であるなら、ストレッチ、ダンス、ボウリングの活動を増やすと良いのではないか。ボウリングの活動量が少ないように感じた。
- 内容に「ハロウィン」が入っているので、生活単元学習になるのでは、という意見もあった。シンプルにボウリングの活動とした方がよかったか。
- ・わくわくタイムの年間指導計画にはハロウィンは入っていない。「生単でハロウィンをしてボウリングを取り入れよう」ということであれば、よいのではないか。

## 2 指導助言（金濱副校長）

にぎやかな衣装と装飾で、まさに「わくわくする」雰囲気作りが施されており、児童が授業を楽しむ気持ちを高める手立てが功を奏していたと思われる。

単元観についてであるが、旬のものは旬のうちに、ハロウィンは10月31日に行われるお祭りであると児童に正しく伝える立場である。季節感を大切にしながら学習活動に臨んで欲しいと思う。

朝の会や学級で行われるハロウィンにちなんだダンスは、非常に効果的で、児童は楽しく取り組んでいた。そうした横断的な教材を本時でも活用したことは有効で、効果的なウォーミングアップとなっていたのは評価できる点かと思われる。しかし、自立活動として取り組む、「わくわくタイム」は、毎回このように大掛かりな内容が適切である必要があるか、という協議も大切である。山目校舎の研究授業は、どこの学部・学団も飾らない「いつもの授業の一場面」が切り取られ、より日常的な課題解決のための研究会になっている傾向がある。よりリアルな研究こそ、互いに多くのヒントを得られる貴重な機会になると思う。

教材教具の工夫について、本時の展開の目玉になる「ボールを転がす」場面は、児童が手や足などを使い、ボールに直接、働き掛ける場面である。先生方が工夫して、様々な転がし方と補助具を活用していた点が、個々の実態に合っていて、さすがだと思えた所だった。児童が一人で、あるいは教師と一緒にボールに力を加えボールが進み始めた瞬間を共有できる、貴重な瞬間に、いかに手応え、足応えのある実感を生む場の設定や装置ができるか、その開発に悩まれたと思う。こうした点は、同じ病弱・肢体不自由の教育課程である中学部や、あすなろ分教室の先生方の授業や装置も大きなヒントになると思う。機会を捉えて、授業を見合い、互いに情報交換できれば、よりよい教材教具の開発につながると思われる。

活動の流れの工夫について、本時のねらいの一つが「友達との集団学習の雰囲気を楽しみ、友達を意識して活動することができる」であった。このねらいを達成するためには、二人同時に投げ合わずに、一人ずつ投げた方が、友達の投げ方やピンアクションまで確認でき、より集団での雰囲気を楽しみ、共有できたのではないかな、と思った。

今回の授業提案を通じて、自立活動の内容を改めて振り返ったり、年間指導計画や教育課程上の位置付けを確認・評価したりすることが「カリキュラム・マネジメント」に当たる。自分たちが携わっている教育課程が、本当にこのままでよいのか協議・検討することが手応えのある授業づくりに大きく影響する。

< 中学部研究授業 >

中学部 自立活動学習指導案

日 時 令和3年12月2日(木)  
5校時(13:25~14:15)  
場 所 体育館  
対 象 中学部2・3年生6名  
授業者 藤原匠悟(T1)、今野敏文(T2)、  
森下 宏(T3)、柏山典子(T4)、  
柵山芳子(T5)、成瀬陽子(T6)、  
安本浩子(T7)

- 1 単元名「仲間と一緒に楽しくポッチャで対戦」
- 2 単元の目標
  - ・集団の中で仲間や教師との関わりを意識しながらポッチャを楽しむ。
  - ・自分で選択したり、体を動かしたりしながら、意欲的にポッチャに取り組むことができる。
- 3 本時の目標

生徒名	単元における実態	本時の目標
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ランプの上で教師が支えるボールを押さえた状態から手をはなして投球する。</li> <li>・ジャックボールの位置を見て、左右どちらの手で投球するか、投球する場所、ランプの方向を決めて、教師と確認して投球している。</li> <li>・チーム内の自分以外の投球順も考えて提案できる。</li> <li>・他者の投球場面に腕を振って応援、称賛の意を表すことがある。</li> <li>・ゲームの勝敗を意識している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間の投球場面に注目して、応援することができる。</li> <li>・自分で上半身を起こし、腕を上げて、投球に向かおうとする。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールの感触を受け入れている。</li> <li>・時折、突っ張って力が入ることもあるが、おおむね腕を上下に動かされることを受け入れて投球することができる。</li> <li>・周囲のにぎやかな雰囲気を受容し、笑顔を見せることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師からの支援や周囲からの声援を受容し、リラックスして投球することができる。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールの感触を受け入れている。</li> <li>・時折、突っ張って力が入ることもあるが、おおむね腕を上下に動かされることを受け入れて投球することができる。</li> <li>・目をキョロキョロと動かし、周囲の変化を受容している様子が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師からの支援や周囲からの声援を受容し、リラックスして投球することができる。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲のにぎやかな雰囲気を受容し、みんなと一緒に活動できるようになってきた。</li> <li>・ボールの感触を受け入れている。</li> <li>・ランプに置いたボールの上に手を載せると、自分から指を動かすことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師からの支援や周囲からの声援を受容し、リラックスして投球することができる。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャックボールの位置を見て、投球するか、ランプを使うか、自分で決められるようになった。</li> <li>・教師からの声掛けをヒントにして投球する位置や車椅子の向きを調整している。</li> <li>・投げたボールの飛距離が伸びてきている。</li> <li>・教師の声掛けが必要なこともあるが、声を出して応援することが増えてきた。</li> <li>・ゲームの勝敗を意識している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャックボールを狙い、その方向を定めて投球することができる。</li> <li>・教師の声掛けに対し、自分の意思を伝えたり、自分で判断したりして投球位置や車椅子などの向きを調整することができる。</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声援を受けるとますます意欲が高まり、にぎやかな雰囲気を楽しんでいる。</li> <li>・教師が問いかけると挙手して自分がやりたい順番を伝えることができる。</li> <li>・ランプに置いたボールの方へ左手を伸ばし、教師がボールの上に手を載せると自分から手を離して投球するようになってきた。</li> <li>・主に左手を使い、投球している。(左右どちらの手を使って投球したいか、本人に確認している。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャックボールを確認し、自ら腕を動かしてボールの上に腕を載せたり、離れたりしながら投球することができる。</li> <li>・発声したり、挙手したりしながら楽しくゲームに取り組む。</li> </ul>

4 本時の展開

●教材教具の工夫 ☆教師の関わり工夫 ★場の設定の工夫 ■活動の流れの工夫

時間	学習活動	指導の手立て・支援上の留意点	教材教具等
13:25 (5分)	1 あいさつ 健康状態の確認  2 本時の流れ 前回の振り返り 本時の流れの確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級ごとにウォーミングアップや休養をし、体調を整えて体育館に集合する。</li> <li>☆T1は、あいさつをする生徒を指名し、T1に注目するよう声掛けをする。</li> <li>☆T2～T7は、T1に注目できるように声掛けをしたり、車椅子の向きを調整したりする。</li> <li>☆T2～T7は、声掛けをしながら生徒と一緒に健康状態を確認し、T1に伝えるよう支援する。</li> <li>☆T1は、前回の試合を振り返り、本時への意欲や期待感をもたせるようにする。</li> <li>☆■T1は、本時の流れを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1 あみだくじでチームを決める。</li> <li>2 あいさつをする。</li> <li>3 投球順の相談・投球練習</li> <li>4 試合をする。3回勝負。</li> <li>5 結果発表</li> <li>6 あいさつをする。</li> </ul> </li> </ul>	ホワイトボード ペン
13:30 (40分)	3 チーム決め  4 試合 チーム毎に整列する。 ①あいさつ ②赤チーム 投球練習 青チーム 投球順の相談 ③赤チーム 投球順の相談 青チーム 投球練習  ④ジャックボールをセットする。 ⑤赤1人目2球 ⑥青1人目2球 ⑦赤2人目2球 ⑧青2人目2球 ⑨赤3人目2球 ⑩青3人目2球	<ul style="list-style-type: none"> <li>●あみだくじを活用しチームを決める。</li> <li>☆■声掛けをしたり、車椅子の向きやホワイトボードとの距離感を調整したりし、あみだくじに注目しながら好きな数字を選択できるようにする。</li> <li>☆■チームが決まったら、チーム毎に整列位置に向かい合って並び、対戦相手の顔が見えるように車椅子や姿勢を調整する。</li> <li>★整列位置に黄色テープをはり、分かりやすいように示す。</li> <li>☆■T1の「よろしくお願いします。」の後に続き、T2～T7は生徒へ促しながら一緒にあいさつし、試合へ向けて気持ちを高められるようにする。</li> <li>■各陣地に移動し、交互に2分間ずつ、投球練習と投球順の相談の時間を設ける。</li> <li>☆投球ラインが緑色のテープであることを確認する。</li> <li>☆投球順を決めるときには、教師が進行役となり、生徒同士が相談できるように促す。</li> <li>☆投球練習をするときには、ランプの向きや高さ、ボールの持ち方、投げ方を確認しながら順番に練習する。</li> <li>●タイマーを使用し、活動時間や終了時間が理解できるようにする。</li> <li>★生徒一人一人の投球技術が発揮できる位置にジャックボールをセットする。</li> <li>★投球場面では、一人ずつ投球し、自分の投球だけでなく、チームの仲間や相手チームの投球にも興味をもったり、互いの頑張りを認め合ったりすることができるようにする。</li> <li>☆■T2～T7は、ジャックボールに注目するよう声掛けをし、生徒が位置を確認したり、意識したりできるようにする。</li> <li>☆●T2～T7は、生徒の実態や希望に応じて、ランプをセットする。 ランプを支える、高さや向きの調整をする、ボールの保持等の介助を行う。</li> </ul>	ホワイトボード ペン 顔写真カード ポッチャ ランプ トレーニングタイマー

	<p>全員が投球後、それぞれのボールの位置を確認しに移動する。 点数を入れる。</p> <p>①結果発表</p> <p>②あいさつ</p>	<p>☆●生徒の手を握って投球する教師は、生徒の表情を見ながら声掛けをし、ボールがどのように転がったのかを伝える。</p> <p>☆●手をボールの上に置いてから投球を始める生徒（AとF）は、教師の声掛けに合わせて手を上げるように促す。また、指さしや声掛けをし、ボールがどのように転がったのか注目できるようにする。</p> <p>☆ランプを使わずに投球する生徒（E）には、投げ方やジャックボールの位置や車椅子の向きの調整などの判断材料となるような声掛けをする。</p> <p>☆投球後には拍手をしたり、良かったところを称賛したりして自信をもって投球できるようにする。</p> <p>☆次も不安なく投球できるように「失敗しても大丈夫」という雰囲気作りを心掛ける。</p> <p>☆点数や勝敗をチームの仲間と分かち合えるように教師が盛り上げ役となり、称賛したり、声掛けをしたりする。</p> <p>☆★■T2～T7は、ボールに注目するよう声掛けをしたり、車椅子や姿勢を調整したりし、生徒と一緒にボールの位置や点数を確認する。</p> <p>☆●T1は、大きいものさしで、ボールの距離を計測し、ジャックボールに一番近いボールが何色なのか生徒と確認する。</p> <p>★■T1は、ホワイトボードに点数を記録する。 ・2回目は、赤と青の順番を逆にして行う。 ・3回目は、点数の低いチームが先攻で行う。</p> <p>★試合終了後、ホワイトボードに注目しやすいように、ハの字の形で整列する。</p> <p>☆T1は、生徒（A、E）と一緒に試合ごとの点数を確認し、合計点数を計算する。 ・T1は、試合結果を発表する。</p> <p>■チーム毎に整列位置に向かい合って並び、対戦相手の顔が見えるように車椅子や姿勢を調整する。</p> <p>☆■T1の「ありがとうございました。」の後に続き、T2～T7は生徒へ促しながら一緒にあいさつをし、試合の終わりを感ぜられるようにする。</p>	<p>ものさし</p> <p>ホワイトボード</p> <p>ホワイトボード ペン</p>
<p>14:10 (5分)</p>	<p>5 振り返り 勝敗や応援している様子を振り返る。</p> <p>6 あいさつ 次時の日程を確認する</p>	<p>■T1とホワイトボードに注目しやすいように横一列に整列する。</p> <p>☆T1は、試合全体を通して良かった点や頑張っていた点などを伝えながら振り返る。</p> <p>☆T2～T7は、同じチームの生徒や関わりの多かった生徒と一緒に良かった点などを発表しながら振り返り、達成感や充実感を味わえるようにする。</p> <p>☆T1は、あいさつをする生徒を指名し、T1に注目するよう声掛けをする。</p> <p>☆T2～T7は、T1に注目できるように声掛けをしたり、車椅子の向きを調整したりする。</p> <p>☆次時の日程を伝え、見通しをもたせる。</p>	<p>ホワイトボード</p>

(1) 本時の評価

A	・仲間の投球場面に注目して、応援することができたか。 ・自分で上半身を起こし、腕を上げて、投球に向かおうとすることができたか。	・声を出して応援する場面が見られた。 ・ジャックボールをよく見て狙う様子が見られた。
B	・教師からの支援や周囲からの声援を受容し、リラックスして投球することができたか。	(当日欠席のため不参加)
C	・教師からの支援や周囲からの声援を受容し、リラックスして投球することができたか。	(当日欠席のため不参加)
D	・教師からの支援や周囲からの声援を受容し、リラックスして投球することができたか。	(試合開始前に体調不良のため退出)
E	・ジャックボールを狙い、その方向を定めて投球することができたか。 ・教師の声掛けに対し、自分の意思を伝えたり、自分で判断したりして投球位置や車椅子などの向きを調整することができたか。	・狙って投球することはできた(状況設定について改善点あり) ・チーム決め、投球順決めでは自分から意思表示できた。
F	・ジャックボールを確認し、自ら腕を動かしてボールの上に腕を載せたり、離したりしながら投球することができたか。 ・発声したり、挙手したりしながら楽しくゲームに取り組むことができたか。	・自らボールから手を離すことはできた。ボールの上に手を載せることは、興奮したため難しかった。(働きかけに改善点あり) ・楽しい雰囲気を感じてゲームに取り組むことができた。

(2) 指導や支援の手立ての評価

ア 生徒の選択、意思表示を促し、引き出す状況が設定できたか。(●☆★■)

・繰り返して取り組み見通しをもつことで、チーム決め、1ゲーム毎の投球順決めでは自発的な姿勢が高まった。

(改善点)

・投球位置を考えて移動する場面設定が不十分だった(E)。投球線から離れて待機し、自分の投球順番になったら移動するような設定がよかったのではないかな。

イ 投球のタイミングを引き出す声かけをしたり、表情を見ながら声をかけたり、生徒一人一人に合わせた働きかけができたか。(☆)

(改善点)

・声援を受けることで、興奮して気持ちのコントロールができなくなる生徒もいた(F)。練習では目指す動きができていた。当球時は静かに見守り、投球後に称賛するなど、生徒に合わせた応援のタイミングも考慮する必要がある。

ウ 仲間の投球に注目し、互いに応援し合う雰囲気を作ることができたか。(☆)

・仲間の投球自体には集中できなくても、楽しい雰囲気を感じてゲームに参加することができた(F)。

<研究協議>

1 研究部より授業提案後に参観した先生方からいただいた質問・意見へのまとめ

(1) 「ア 生徒の選択、意思表示を促し引き出す設定が出来ていたか」について

<質問>

・自己表出が難しい生徒に対して、意思を引き出すための教師の指導の工夫をどのようにしているか。

→今からどんな動作をするのか説明し、表情の変化、体の変化、視線の動きなどの細かいところを見ながら、生徒とどのように関わるかの共通理解を職員間で図りながら、指導に当たっている。

例えば、周りの友達や教師が、今、何をしているのかを一つ一つ丁寧に伝えながら、一緒に行っている。あえて、担任ではない教師と組んで、そのドキドキ感を味わうといった工夫もしている。

<意見>

・チーム決めから自己選択する場が多く設定されていた。

・生徒が発した意思表示を理解し、それを実現する教師の力がよかった。

・距離計測の場面では、「生徒に考えさせる」ことができていた。

・定規での計測、デジタル時計での時間設定など、丁寧な支援だと思った。

・生徒が注視するようにT1が適切な動きと発問を行っていた。

(2)「イ 投球のタイミングを引き出す声掛けをしたり、表情を見ながら声を掛けたり、生徒一人一人に合わせた働き掛けができていたか」について

<意見>

・Aさんの投球時、ボールを固定するともう少し自分の力でボールを転がすことができたのではないか。

(3)「ウ 仲間の投球に注目し、互いに応援し合う雰囲気を作ることができたか」について

<意見>

・教師も参加することで盛り上がるだけではなく、生徒たちはしっかり教師の動きを観察していた。

(3) その他

<質問>

・中学部での集団学習の取り扱い時間を教えてほしい。

→自立活動の中で、音楽的な活動を週に1時間、体育的な活動を週に1時間、作業的な活動を週に2時間行っている。その他、特別活動で委員会活動などを行っている。

・年間指導計画とボッチャの取り扱いについて教えてほしい。単元計画として指導案には11・12月しか記載されていないが、それ以前も行っているということか。

→体育的な活動としては、年間を通じて、ボッチャを取り上げている。夏の時期はプール学習を集中して行っている。日頃、ボッチャに親しんでいるので、運動会の種目もボッチャを取り上げた。運動会の期間に限定して取り組んだわけではない。昨年、ボッチャの用具を一式購入してもらい、ボッチャに取り組み始めた。授業を見ていただいたように、繰り返し活動してきたことで、一人ひとりねらいは違うが、力は伸びている。特にも、集団学習で、相手を意識して活動する、仲間同士の広がり、仲間と活動するという面においては、ボッチャはよい題材であった。

<意見>

・体育的な集団学習の取り扱いについて、年間指導計画を、年度当初にしっかり立案しておくことが大切だったのではないか。自立活動の6つの区分をどう授業に盛り込むかの確認が必要である。

・得点板が見えにくかった。

・場の雰囲気づくりとしてBGMをかけることも有効ではないかと思った。

→ゲームに集中できるようにあえて使用しなかった。

・最後のまとめの発表のとき、発表者は前に出て、仲間の顔を見て話す方がよかったのではないか。

2 授業について（授業研究会当日の協議から）

<質問>

・運動会でボッチャを取り上げたときのルールや得点の仕方と、今回の授業のボッチャの得点の仕方が異なるが、その発展性について

→東京パラリンピックが開催されたこと、暑い時期はその映像を見たり、理論的なことを伝えたりして、より現実的なルールに近づけていこうということで、ジャックボールを今回は使用した。

・ボールを投げ合う、それぞれの距離を含めた、ルール等について。コートやラインはあったのか。



- ・ボッチャのルールを子どもたちのために変更した工夫点について
- 正規ルールはそもそも対面していない。対面としたのは、集団学習でのコミュニケーション・関わりがテーマで、それをルールに取り入れようとしたからであるが、距離の不平等は出る。また、厳密なコートはないが、このラインから投球する、という自由度のあるルールにしている。始めた頃はラインを意識できなかった。一年半かけてラインが意識できるようになった。まずはこの線から、ということができるようになり、今は対面で行っている。また、正式ルールだと距離が遠すぎてボールが届かない。技術が追いついていかないところがあった。広すぎると、ただ転がしているだけ、という遊び感が出てきた。マンネリ化を避けるために、対面にしたり、距離を探ったりしながらルールを変えていった。投球順も、正規ルールにすると投球が回ってこない生徒が出てくるので、2球交代制にした。
- ・ジャックボールの位置について、T1は始めから狙って投球したのか？
- ジャックボールの位置というより、注目してほしいというパフォーマンスであった。距離が長い、短い点数によって意図的に変えることはある。今回は結果的にあの位置になった。
- ・投げるときポイント、工夫点があれば知りたい。
- その子ができること、できる力を生かすこと、動く箇所、可動域、その子に応じた設定をすること。投げるだけでなく、引っ張って投球する装置を使うなど。
- ボールが足元に落ちてしまうEさんの投球技術を高めるために、個別の自立活動の時間に、ボールではないものを投げる練習をした。紙飛行機を飛ばす練習を繰り返すことで、ボールを投げるができるようになった。

#### <授業者より>

- ・T1の立ち位置、立場について。今回はT1は全体を見渡し、生徒と直接関わり、指導はT2～T7の先生方に行ってもらっているがどうだったか。
- ボッチャをするに当たり、生徒のこういう動きを引き出したいというT1の思いがあり、山目ルールを作り、T1は授業を展開していったと思う。ルールが分かる人が前にいた方が良く、T1があちこちに動くとう授業が揺らぐ。T1は前に出て全体を動かす、体育は特にそのような流れになっていると思う。生徒も教師も誰と組むか分からない緊張感があふれる授業をしているならば、なお、教師間で生徒との関わり方についての打ち合わせが必要となっていく。T1の立ち位置、全体の授業の流れに違和感はなく、T2～T7の先生方もT1の声掛けを聞いて指導に当たっているのが分かった。

### 3 指導助言（金濱副校長）

中学部の仲間同士の広がりを感じるには、ということで自立活動の指導を公開するに当たり、いろいろとご苦労があったと思う。教材は、大人も燃えるボッチャ、教師が楽しいという雰囲気は子どもに伝わるので、大事な教材なのだと感じた。体育の視点から見ると、継続性が山目中学部には必要なのだと思った。欠席の生徒、体調面で参加が難しい生徒もいるので、ある程度長いスパンで取り組んだ方が結果が出るのだということを感じた。先生方は、子ども達に合わせよう、子ども達のねらいを達成するためにはどうしたらよいか、日々取り組んでいるところだと思う。スポーツでいうとアダプテッド・スポーツとって、ルールを子ども達の実態に合わせて適応させるという考え方を、先生方はスポーツに限らず、様々な教材で行っているの、そういう部分や、授業者からの紙飛行機の話聞いて勉強になった。

わかば学級、中学部の病肢重複の教育課程の授業を見合う、研究し合うことは、これからの専門性を高めるために大事な機会であり、特別な機会を設けなくても、日常で見合えないか、あるいは、あすなる分教室の授業も勉強になるので、機を見て見合うことができるようにするためにはどうしたらよい

か、ということ、普段、職員室の中で話し合いながら、皆さんで専門性を向上していけたらよいと思った。

## 5 成果と課題

### <わかば学級>

#### (1) 成果

ア 昨年度の研究において精選した、集団学習「わくわくタイム」で取り上げる題材を実践することにより、児童の課題や集団学習の意義に迫ることができる題材かどうかを検証することができた。

イ 授業改善を行い、学習活動を繰り返すことによって、児童が見通しをもち、「わくわくタイム」を楽しみにする様子がみられた。活動の最中に周囲の様子を見たり、教師の話や友達の声に耳を傾けたりすることが増えた。積極的に前に出て、みんなの前で活動する児童の姿もみられた。

ウ 個々に応じた教材教具を工夫し、活動を繰り返すことで、自分から手や足を動かす、教具に手を伸ばしたり、自分で操作しようとしたりする、といった自発的な動きがみられるようになった。

エ 友達とペアになったり、グループに分かれて協力して活動したりする機会を意図的に設定することで、友達のにぎやかな声を聞いて喜んだり、友達を応援したり教材を手渡したりするなど、友達と関わりながら、集団活動の楽しい雰囲気味わったり感じたりすることができていた。

オ 個別の指導計画・単元のねらい・実態整理表から導いた集団学習における個々のねらい・本時のねらいを、授業者全員で共通理解し、授業に当たることで、きめ細かな評価につなげることができた。

#### (2) 課題

ア 実態整理表の効果的な活用について

新学習指導要領の「自立活動の流れ図」を参考にした「実態整理表」について、早い段階での指導者間での共通理解が必要であった。次年度もこの実態整理表を活用し、わかば学級の集団学習の充実に生かせればよいと考える。

イ 一人一人に応じた教材教具の工夫について

集団学習において、児童一人一人の学習活動を充実させるためには、個に応じた教材教具の作成が不可欠である。児童ができること、もっている力を十分に発揮しながら活動できるように、一人一人に合わせた教材教具を工夫していくことが大切である。

ウ わかば学級の自立活動における集団活動の位置付けについて

研究授業を通して、わかば学級の自立活動における集団学習の位置付けや、内容についての検討が必要なことが分かった。題材選定の重要性も明らかになったことから、次年度に向けて、児童の実態を考慮しながら、取り上げる題材について吟味していきたい。

### <中学部>

#### (1) 成果

ア 自立活動において集団学習で指導を行う際の要件、自立活動の評価の観点、指導計画の作成について研修を行い理解を深め、それらの視点を指導に取り入れることができた。

イ 集団の中での個、という視点をもって一人一人の指導を計画することができた。その一方で一人一人の実態が大きく違うことによる集団学習の難しさもあった。しかし、多くの指導者が共通理解の上で接することができたことで、同じ指導観をもって指導することができた。

## (2) 課題

### ア 実態整理表の効果的な活用について

集団学習で同じ題材に取り組む上で、生徒一人一人の実態が大きく異なるため、場の雰囲気を感じ、相手の働きかけを受け容れる、相手に意思を伝達したり自分から働きかけたりする、など、個々のねらいも違って来る。適切な実態把握と課題の整理を行い、集団の中での個に応じた視点によるねらいの設定、実現を目指したい。本年度、学習指導要領解説の流れ図による実態把握と課題整理を試行的に活用して指導計画を作成したが、次年度も生徒一人一人の共通理解を図るうえで引き続き活用していきたい。

### イ 集団学習の場の設定について

次年度中学部は1学年3名の在籍となる。これまで同様の集団学習の取り組みが難しくなる中で、相手との関わりを大切に学習をどのように設定、実践していくかも課題となる。

## 6 まとめ

2年次研究を通して、新学習指導要領に基づいた自立活動の指導について、指導計画の作成や評価の観点について学び、それらの視点を授業に取り入れながら、指導の充実を目指して実践を行うことができた。特に、児童生徒の実態整理表（流れ図）や、今年度の学部研修会で示された自立活動における個別の指導計画シートなどは、今後も活用していくことで、児童生徒理解が深まり、課題の共有など、職員間の共通理解を図る際に有効だと思われる。

研究授業では、「人との関わり・コミュニケーション」について焦点を当て、わかば学級・中学部の集団学習の授業を提案し合い、研究会を行った。児童生徒が、集団で学習する楽しさを味わうことができるような指導の工夫、個々に応じたきめ細かい指導や教材教具の工夫などを見合い、意見を交わし合うことは、学び合いの貴重な時間となった。次年度もこういった機会がもてればよいと考える。また、研究を通して見つかった各々の課題については、次年度の授業改善にしっかりと生かしていきたい。